

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)	
		11/13-11/20	11/20-11/27
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.200
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.037
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.034
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.060
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.038
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.037
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.039
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.057

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)	
		11/13-11/20	11/20-11/27
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.047
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.028

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己 京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

第122回目
大気浮遊じん放射能測定結果の解説
(2019年11月13日～2019年11月27日)

明けましておめでとうございます。まだまだご心配を抱えながら新年を迎えられた方も多いと思いますが、今年こそ新しい元号とともに力強い復興を実現しましょう。浮遊塵の放射能測定は、2014年11月に開始してから、今回で122回を数えました。その間、放射能量は確実に低下し、今回(平均0.05mBq/m³)を含め、2年以上前から放射能汚染(セシウム137濃度)の平均値は、0.05mBq/m³程度と事故による過剰被ばくを全く考えなくて良い状態が続いています。しかし、将来を担う子供達が、不安を持たず成長してゆけるように、この事故のことを正しい科学的情報とともに伝えてゆく必要があると思います。